

各プラットフォーム確認事項

名称	高知市農福連携研究会	
①参画機関	<p>【農業】JA高知市営農指導課、JA高知県春野営農経済センター営農指導課、高知市（農林水産課、春野地域振興課、土佐山地域振興課、鏡地域振興課）、中央西農業振興センター高知農業改良普及所（事務局）</p> <p>【福祉】高知市福祉事務所（会長：福祉事務所長）、高知市（福祉管理課、障がい福祉課）、障害福祉サービス事業所（しごと生活サポートセンターウェブ、高知ハビリテーリングセンター、みどり作業所）</p> <p>【連携機関農業】JA高知県農業所得増大対策室、県農業会議、県環境農業推進課</p> <p>【連携機関福祉】県障害保健支援課、ハローワーク高知</p>	
②支援対象者の範囲	障害者、ひきこもりの方、生活困窮者	
③活動方針	高知市における関係機関の情報共有により、農福連携事業を促進する	
④会の開催頻度	2回程度/年	
⑤令和5年度の活動実績	障害	<p>[会議]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究会2回（8月25人、3月18人）</li> <li>担当者会2回（9月12人、2月6人）</li> </ul> <p>[意識醸成]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>JA生産部会に対する意識啓発1回（11月21人）</li> <li>農福連携に向けた情報交換会（2月13名）</li> </ul> <p>[マッチング内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設外就労1件</li> <li>①ハウスショウガ、出荷用段ボール箱組立、3月下旬～6月）</li> <li>施設内就労3件</li> <li>①ナス、計量、袋詰め、箱詰め、10月～6月</li> <li>②トマト、袋詰め、箱詰め</li> <li>③唐人豆、殻むき、選別、袋詰め、12月～1月</li> </ul>
	生きづらさ	
⑥今年度の活動計画	障害	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究会：2回、担当者会3回</li> <li>就労検討会での情報交換会：1回</li> <li>情報提供：JA広報誌での活用（1回）、生産部会に対する意識啓発</li> <li>マッチング実績：2件</li> </ul>
	生きづらさ	
⑦今後、農福連携に取り組む農家等や障害者等を増やすための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業と福祉の相互理解の促進。</li> <li>取り組み事例の収集と研究会での情報共有。</li> <li>マッチング体制の整備。</li> <li>農福連携促進コーディネーターとの連携。</li> </ul>	
⑧農家等及び障害者等の農福連携に係る取組ニーズの把握方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業側、福祉側双方の現場における情報収集と関係機関で共有できる体制づくりの検討。</li> </ul>	
⑨農福連携を推進するうえでの課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業側と福祉側の相互理解の促進。</li> <li>就労継続支援事業所への委託に適した作業の掘り起こし。</li> </ul>	

各プラットフォーム確認事項

名称	室戸市障害者自立支援協議会 就労支援部会	
①参画機関	就労継続支援B型事業所（共同作業所むろとうみがめ）、相談支援事業所（しえんの舎・はまゆう・むろと）、障害者就業生活支援センターポラリス、安芸公共職業安定所、室戸市社会福祉協議会、高知県安芸農業振興センター室戸支所、高知県安芸福祉保健所、室戸市産業振興課、室戸市保健介護課	
②支援対象者の範囲	障害者、ひきこもりの方、生活困窮者	
③活動方針	障害者等の就労支援の向上を考え、関係機関と連携し、支援体制づくりを行うとともに、障害のある方たちの就労の場を広げていくことを目的とする。	
④会の開催頻度	1～2回程度／年	
⑤令和5年度の活動実績	障害	<p>【視察】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中央東農業振興センター農福連携座談会を視察（2月）</li> </ul> <p>【情報交換会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自立支援協議会定例会（毎月）での情報共有、意見交換。</li> </ul> <p>【意識醸成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「農・林・水産業＋α 福祉との連携サミットinむろと」を開催（11月、参加者88人）</li> </ul> <p>【マッチング支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>《施設外就労》支援案件数：2件（うちマッチング数：2件）</li> <li>《施設内就労》支援案件数：9件（うちマッチング数：2件）</li> </ul>
	生きづらさ	
⑥今年度の活動計画	障害	<ul style="list-style-type: none"> <li>就労を考える会：毎月開催</li> <li>農作業体験：秋頃実施予定</li> <li>農福双方に対する情報提供：市の広報誌の活用、市のHPへの掲載</li> </ul>
	生きづらさ	
⑦今後、農福連携に取り組む農家等や障害者等を増やすための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>農福連携に係る勉強会や就労体験等を定期的に開催していく。</li> <li>市の広報誌やHPを活用し、情報発信を行う。</li> </ul>	
⑧農家等及び障害者等の農福連携に係る取組ニーズの把握方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>農家等へのニーズ調査を引き続き実施。</li> </ul>	
⑨農福連携を推進するうえでの課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>就労場所等までの交通手段の確保。</li> </ul>	

各プラットフォーム確認事項

名称	安芸市農福連携研究会	
①参画機関	JA高知県安芸地区安芸営農経済センター（会長：営農企画課長）、安芸市農林課（事務局）、安芸市福祉事務所、安芸市包括支援センター、安芸福祉保健所、安芸農業振興センター、障害者就業生活支援センター、なんこく若者サポートステーション、（一社）こうち絆ファーム、高知県山田特別支援学校田野分校地域支援・進路部	
②支援対象者の範囲	障害者、ひきこもりの方、生活困窮者	
③活動方針	就労を希望する障害者やひきこもりの方に対し、農家等での作業体験を行いマッチングさせる事で就労につないでいく。 また、生きづらさを抱える方の居場所としても取り組む。	
④会の開催頻度	12回程度／年（毎月1回）	
⑤令和5年度の活動実績	障害	<p>【情報交換会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・12回（毎月1回）</li> </ul> <p>【意識醸成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農福連携サミットを令和5年8月3日に開催（参加者 約110人）</li> </ul>
	生きづらさ	<p>【マッチング支援】</p> <p>《個別就労、施設外就労》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安芸福祉保健所等関係機関でのマッチング支援となり、件数は未把握</li> <li>・近年は、個別就労側（農家）が伸びていないため、B型事業所（絆ファーム）での受入件数が増加傾向にある</li> </ul>
⑥今年度の活動計画	障害	<p>【情報交換会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・12回（毎月1回）予定</li> </ul> <p>【意識醸成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農福連携サミット：7～8月に開催予定</li> </ul>
	生きづらさ	<p>【マッチング支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・随時</li> </ul>
⑦今後、農福連携に取り組む農家等や障害者等を増やすための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業経営体向けの農福連携に係る勉強会の開催</li> <li>・農業経営体、障害福祉事業所に対する農福連携の取組紹介のチラシ配布</li> </ul>	
⑧農家等及び障害者等の農福連携に係る取組ニーズの把握方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の情報交換会での情報共有</li> </ul>	
⑨農福連携を推進するうえでの課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農家側の雇用ニーズはあるが、農福連携の理解が低く、農家とのマッチングに結びつかない</li> <li>・障害者等に基本的な技術が身につくまでの伴走支援が必要</li> <li>・閑散期の作業確保等</li> </ul>	

各プラットフォーム確認事項

名称		南国市農福連携研究会
①参画機関	南国市福祉事務所（会長：福祉事務所長）、南国市農林水産課（事務局）、高知県中央東農業振興センター、社会福祉法人「きてみいや」、JA高知県土長地区南国営農経済センター、障害者就業・生活支援センター「ゆうあい」、南国市社会福祉協議会、なんこく若者サポートステーション、地域活動支援センター「南国」、南国市保健福祉センター	
②支援対象者の範囲	障害者、ひきこもりの方、生活困窮者等	
③活動方針	研修会等を通じて農業者や福祉事業所等の農福連携の取り組みへの理解を深めるとともに、農産物の袋詰め作業の体験会等を開催し、福祉事業所の施設内就労の拡大や、支援対象者の農業分野への就労につないでいく。	
④会の開催頻度	2回程度／年	
⑤令和5年度の活動実績	障害	<p>【情報交換会】 農福連携研究会（R5.6.7） 出席者数 13人</p> <p>【農作業体験会】 ししとうパック詰め体験会（R5.6.7） 参加者数5人 （うち福祉事業所等利用者5人）</p>
	生きづらさ	<p>※マッチング支援として、R5.11月頃から共同参加型のししとうパック詰め就労の施行を当初計画していたが、担当者（事務局）が長期不在となり、R5.9月以降農福連携研究会としての活動が休止状態。 ※農福連携研究会独自の活動が休止となり、中央東農業振興センターが定期的 に実施する農福連携座談会に参加。</p>
⑥今年度の活動計画	障害	<p>【情報交換会】 2回程度</p>
	生きづらさ	<p>【マッチング支援】 農作業体験会 共同参加型によるししとうパック詰め就労の試行</p>
⑦今後、農福連携に取り組む農家等や障害者等を増やすための取組	農福連携に関心のある農家等の掘り起こし （農家等への聞き取りや福祉事業所へのニーズ確認）	
⑧農家等及び障害者等の農福連携に係る取組ニーズの把握方法	農福連携に関心のある農家の情報提供	
⑨農福連携を推進するうえでの課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害施設側の意見には「既存の受注業務等で充足しており、新たな作業導入に取り組む必要が低い」という意見が複数ある。</li> <li>・ 生活困窮者の自立支援を実施する社協からは「工賃単価が低く、困窮者の労働意欲を喚起しづらい」との意見がある。</li> <li>・ 障害者等に基本的な技術が身につくまでの伴奏支援が必要。</li> <li>・ 福祉施設利用者、農業者ともに農福連携に対する関心がまだまだ低い。</li> </ul>	

各プラットフォーム確認事項

名称		土佐市労働力確保PT 農福連携部会
①参画機関		土佐市福祉事務所 土佐市産業振興課 JA高知県仁淀川営農経済センター営農販売課（指導・販売） 中央西農業振興センター 土佐市社会福祉協議会（オブザーバー）
②支援対象者の範囲		障害者、ひきこもりの方、生活困窮者
③活動方針		JA高知県「あぐりマッチこうち」の有効活用による労働力確保へ ⇒JAピーマン部会から重点的に取り組み、他部会等につなげる。 農福連携に関して、企業とのマッチングを含めた取り組みを検討 ⇒福祉を中心にした地域協議会の有効活用
④会の開催頻度		4～5回／年
⑤令和5年度の活動実績	障害	土佐市労働力確保対策PT:農福連携部会での検討 (5月26日、6月6日・本年度の取り組みについて) (7月12日、農福連携先進地事例調査:JA土佐くろしおにおいて一作業委託に関する事例調査) (9月14日、JAピーマン部会役員会で出荷場における農福連携の取組の周知) (9月21日、障がい者等の雇用に関心のある農家に対し、農福連携に対する関心の聞き取り、情報提供) (10月1日～2週間 ㈱Actによる出荷場作業委託業務の施行) (11月1日～㈱Actによる出荷場作業委託業務の実施) ※出荷場における障がい者等の雇用 ㈱Actから11名(2/15現在)
	生きづらさ	土佐市労働力確保対策PT会での検討 (5月26日、6月6日・本年度の取り組みについて) (9月・「あぐりマッチこうち」の利用及び周知を目的に、農作業ヘルパー募集チラシを作成、JA組合員に広報) (9月21日、ピーマン収穫体験受入候補農家の意向確認) (12月6日、12月28日、ピーマン収穫体験の打合せ) (1月24日、ピーマン収穫体験開催、3名参加⇒ピーマン農家で3名雇用)
⑥今年度の活動計画	障害	土佐市労働力確保対策PT:農福連携部会での検討 4月～6月:本年度の取り組みについて協議
	生きづらさ	土佐市労働力確保対策PT会での検討 4月～6月:本年度の取り組みについて協議 農作業ヘルパーの募集周知(高知りハビリテーション専門職大学、農業大学校等)
⑦今後、農福連携に取り組む農家等や障害者等を増やすための取組		JA高知県「あぐりマッチこうち」の周知 福祉事務所窓口で障害者や生活困窮者等へのお知らせ 就労継続支援事業所との連携
⑧農家等及び障害者等の農福連携に係る取組ニーズの把握方法		関係機関等と協議を行いニーズの把握方法を検討
⑨農福連携を推進するうえでの課題		農福連携をさらに効果的に進める取り組みが必要 障害種別による特性への理解及び支援が必要

各プラットフォーム確認事項

名称	須崎市自立支援協議会農福連携部会	
①参画機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般農家 ・B型事業所 ・JA土佐くろしお農協 ・高知県農業会議 ・須崎農業振興センター</li> <li>・障害者就業・生活支援センターこうばん ・こうち若者サポートステーション</li> <li>・農福連携コーディネーター ・須崎公共職業安定所 ・須崎福祉保健所 ・須崎市福祉事務所 等</li> </ul>	
②支援対象者の範囲	障害者、ひきこもりの方	
③活動方針		
④会の開催頻度	年2～4回程度	
⑤令和5年度の活動実績	障害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部会開催（2回：参加者 各回約15名）</li> <li>・シットウハウス作業見学</li> <li>・農家見学（佐川町）</li> <li>・一般就労を目指す方の農作業就労体験</li> </ul> <p>【マッチング支援】                      《一般就労》支援案件数：2件（うちマッチング数：1件）                      ※マッチング内容 《作業内容》農作物の出荷に係る作業                      《期間》通年</p>
	生きづらさ	
⑥今年度の活動計画	障害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分科会の開催（2～4回程度）</li> <li>・体験会、研修会等の実施</li> <li>・マッチング（随時）</li> </ul>
	生きづらさ	
⑦今後、農福連携に取り組む農家等や障害者等を増やすための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農福連携の取組についての周知・広報活動</li> <li>・各支援制度についての周知活動</li> <li>・就労体験等の実施</li> </ul>	
⑧農家等及び障害者等の農福連携に係る取組ニーズの把握方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農家の方へのアンケート調査</li> <li>・障害者・ひきこもりの支援者等への聞き取り</li> <li>・就労継続支援事業所等への聞き取り</li> <li>・就労支援機関との情報共有</li> <li>・その他</li> </ul>	
⑨農福連携を推進するうえでの課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般雇用を進めるうえでの支援策の不足</li> <li>・マッチングの際の、農家等、障害者等それぞれの求めるものすり合わせ。</li> <li>・雇用後の伴走支援。</li> </ul>	

各プラットフォーム確認事項

名称		幡多地区農福連携協議会
①参画機関	四万十市・宿毛市・土佐清水市福祉事務所、各町村の福祉関連課、各市町村農業振興課、JA高知県はた営農経済センター、幡多福祉保健所、各市町村社会福祉協議会、就労継続支援B型事業所等、幡多農業振興センター(事務局)	
②支援対象者の範囲	障害者、ひきこもりの方、生活困窮者等	
③活動方針	関係機関との情報共有および連携を行いながら、就労を希望する障害者やひきこもりの方に対し、農家等での作業体験や試行就労を行い、マッチングさせる事で就労につないでいく。 また、生きづらさを抱える方の就労にも取り組む。	
④会の開催頻度	2回程度/年	
⑤令和5年度の活動実績	障害	<p>【連絡協議会】 2回：53人（①4月：須崎青果のキュウリの箱詰め作業実演、STEP ONEのキュウリ作業・参加者36人 ②1月：多機能型事業所STEP ONEの農福連携の取り組み・参加者17人）</p> <p>【情報共有・収集】 各市町村関係機関との情報共有6回、JA集出荷場の作業聞き取り7カ所</p> <p>【呼びかけ・啓発】 JA各分会への農福連携について啓発：18分会、のべ386名に説明</p> <p>【体験会・マッチング支援】 1回：イチゴの箱折り作業体験会（3事業所が参加） →マッチング：2事業所が1月から、箱折り作業を請け負う。</p>
	生きづらさ	<p>【連絡協議会】 2回（①4月参加者36人 ②1月17人）</p> <p>【情報共有・収集】 各市町村担当者との情報共有6回、JA集出荷場の作業聞き取り7カ所 大月町（ひきこもり支援者）での情報提供・収集1回（3月）</p> <p>【呼びかけ・啓発】 JA各分会への農福連携について啓発：18分会、のべ386名に説明</p> <p>【マッチング支援】 《就労（試行）》支援件数5件（うちマッチング：1件） →マッチング：《品目》ユズ《作業内容》収穫作業《期間》1ヶ月</p>
⑥今年度の活動計画	障害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幡多地区農福連携協議会：2回</li> <li>・各市町村農業関係機関連絡会での情報提供および収集</li> <li>・幡多地区のJA各分会（農家）への情報発信および啓発</li> <li>・福祉事務所・各事業所担当者との情報共有</li> </ul>
	生きづらさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幡多地区農福連携協議会：2回</li> <li>・各市町村農業関係機関連絡会での情報提供および収集</li> <li>・幡多地区のJA各分会（農家）への情報発信および啓発</li> <li>・福祉事務所・各事業所担当者との情報共有</li> <li>・大月町（年3回程度）における定例会への参加と情報提供</li> </ul>
⑦今後、農福連携に取り組む農家等や障害者等を増やすための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農家の掘り起こし：農家組織のJA分会への情報発信を行い、周知を図る。 →農福連携のパンフや事例集の活用、農家受け入れの増加</li> <li>・福祉側への定期的な情報提供および連携</li> <li>・農福連携促進コーディネーターとの連携</li> </ul>	
⑧農家等及び障害者等の農福連携に係る取組ニーズの把握方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県・JA等の関係者からの情報収集</li> <li>・農家への聞き取りなどによる意見・実態把握</li> <li>・福祉側関係者との情報交換</li> <li>・黒潮町・大月町など定例会への参加</li> <li>・農福連携促進コーディネーターとの情報収集</li> </ul>	
⑨農福連携を推進するうえでの課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農家のほ場・作業場は郊外となることがほとんどであり、福祉事業所への農産物の運搬、現地への人を搬送する交通手段・方法がない、少ない。</li> <li>・障害者等が実施できる行程作業の分割や方法が明確化できていない。</li> <li>・農家の農福連携に対する認識・理解が十分でない。</li> <li>・個人での移動手段を持っていない、また公共交通手段がない・少ない。</li> <li>・農作業現場ではトイレや休憩所などの場所の整備ができていない。</li> </ul>	

各プラットフォーム確認事項

名称		香南市農福連携研究会
①参画機関	香南市福祉事務所（会長）、香南市農林水産課（事務局）、JA高知県香美地区香美営農経済センター、高知県中央東農業振興センター	
②支援対象者の範囲	明確に定めていないが、障害者を主とする予定。	
③活動方針	当研究会における活動方針に明確な定めはないが、関係機関の情報共有等を図っていく。	
④会の開催頻度	R5：開催なし R6：1回程度／年	
⑤令和5年度の活動実績	障害	活動なし
	生きづらさ	活動なし
⑥今年度の活動計画	障害	・令和6年度香南市農福連携研究会において検討予定。
	生きづらさ	・令和6年度香南市農福連携研究会において検討予定。
⑦今後、農福連携に取り組む農家等や障害者等を増やすための取組	・令和6年度香南市農福連携研究会において検討予定。	
⑧農家等及び障害者等の農福連携に係る取組ニーズの把握方法	中央東農業振興センター主催の農福連携座談会への参加	
⑨農福連携を推進するうえでの課題	香南市における農家及び障害者のニーズの把握が必要	



各プラットフォーム確認事項

名称		香美市障害者自立支援協議会 就労支援部会
①参画機関		地域活動支援センター「香美」、障害者支援施設 白ゆり 高知公共職業安定所香美出張所 障害者就業・生活支援センター「ゆうあい」、福祉事務所
②支援対象者の範囲		障害者（障害者手帳の有無、診断の有無は問わない）
③活動方針		障害のある方が、その能力と適正に応じて生きがいと希望を持って働くことができる地域を目指すために、障害のある方の就労等に係る地域の現状、課題及び既存の資源について把握するとともに、関係機関が連携・協働し、支援の方法について協議することで、障害のある方の就労促進、自立及び社会参加を推進する。
④会の開催頻度		年4回程度
⑤令和5年度の活動実績	障害	令和6年2月16日 第1回開催 ・部会の立上げ ・各機関からの状況報告 ・次年度の活動方針
	生きづらさ	本部会では「障害者手帳の有無、診断の有無に限らない」としているが、原則障害者を協議の対象としている。
⑥今年度の活動計画	障害	（第1回目就労支援部会） テーマ：就労やサービスにつながらない人の日中活動の支援について 内 容：人数・ニーズの把握 ・山田特別支援学校のアフターフォローの状況 ・就労移行支援事業利用後の離職者の数 ・中卒後どこにもつながっていない人の数 事例検討
	生きづらさ	本部会では「障害者手帳の有無、診断の有無に限らない」としているが、原則障害者を協議の対象としている。
⑦今後、農福連携に取り組む農家等や障害者等を増やすための取組		農業だけでなく、製造業やサービス業も含めて障害者等の就労先や活動先を確保するための掘り起こしと就労を希望する障害者等の掘り起こしを進めていく。
⑧農家等及び障害者等の農福連携に係る取組ニーズの把握方法		障害者等の就労先のニーズは多様であり、既存の相談機関においてケースごとに把握していく。
⑨農福連携を推進するうえでの課題		農福連携は、重層的支援体制整備事業の一環として実施することで、効率的且つ効果的に実施できると考えているが、人材不足のため重層的支援体制整備事業に取り組めていない。 障害者等と支援者（農家等）とのニーズが一致しない。

各プラットフォーム確認事項

名称		れいほく地区障害者自立支援協議会就労支援部会
①参画機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・れいほく地区自立支援協議会（大豊町・本山町・土佐町・大川村）高知県中央東農業復興センター嶺北農業改良普及所・障害者就業生活支援センター「ゆうあい」・れいほく地区福祉サービス事業所「れいほくの里どんぐり、りんどう、ファースト」</li> </ul>	
②支援対象者の範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各事業所の障害を持たれた方</li> </ul>	
③活動方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・れいほく地区事業所間利用者職員交流、1事業所では出来ない作業を協力して行う。収穫時期に働き手の確保が出来ない農家さんと連携、施設外で農家の方と作業することで働く意欲や社会性を身につける。</li> </ul>	
④会の開催頻度	3事業所ミニ部会年随時	
⑤令和5年度の活動実績	障害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たばこ組合清掃10/4（各事業所4名）11/17（各事業所4名）</li> <li>・さつま芋収穫作業期間10/16～11/1（各事業所利用者3～5名）作業代について農家さんと話し合い（部会長ファースト三谷）時給を720円から750円にアップとなる。</li> <li>・人権啓発フェッショナルこころんフェスタ出店（りんどう干し芋販売職員1名、ファーストポチ袋等販売職員3名、利用者5名）</li> </ul>
	生きづらさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>【情報交換会】2回（5月、参加者4名、9月、参加者3名）</li> <li>【イベント参加】12月「人権啓発フェッショナルこころんフェスタ」出店、参加者9名</li> </ul>
⑥今年度の活動計画	障害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労支援ミニ部会年随時・たばこ組合清掃（年2回）・さつま芋収穫（10月中旬～11月初旬）</li> </ul>
	生きづらさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労支援ミニ部会年随時、3事業所でのイベント参加販売、交流会</li> </ul>
⑦今後、農福連携に取り組む農家等や障害者等を増やすための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3事業所の交流、それぞれの事業所での作業内容や利用者様の障害特性を理解する。出来そうな農作業の情報収集する。</li> </ul>	
⑧農家等及び障害者等の農福連携に係る取組ニーズの把握方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嶺北農業改良普及所、現在連携している農家様とは取組のための改善等についてはその都度、意見を言ったり話し合っている。</li> </ul>	
⑨農福連携を推進するうえでの課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者様の障害特性や各事業所の方針等考慮して作業時間を調整している。作業場所が施設から遠い所や朝の早い時間の作業など希望に添えないことがある。職員同行でないと作業が出来ないため、職員の都合により出来ないことがある。</li> </ul>	

各プラットフォーム確認事項

名称		いの町農福連携研究会、就労支援部会
①参画機関		高知県中央西農業振興センター、高知県農業協同組合仁淀川地区伊野支所、中央西福祉保健所、こうち絆ファーム、いの町社会福祉協議会、いの町産業経済課、いの町ほけん福祉課、その他
②支援対象者の範囲		ひきこもりの方、生活困窮者、障害者、生きづらさを抱えた方等
③活動方針		就労を希望する障害者やひきこもりの方に対し、農家等での作業体験を行い社会参加のきっかけづくりとする。 また、生きづらさを抱える方の自信を取り戻す居場所づくりとして取り組む。
④会の開催頻度		随時（令和6年度は年4回予定）
⑤令和5年度の活動実績	障害	<p>【農福連携研究会等】</p> <p>①こうち絆ファームTEAMいの設立運営委員会は、R5.5こうち絆ファームTEAMいの開所に伴い、R5.4の16回目で終了となる。</p> <p>②いの町農福連携研究会、就労支援部会は1回開催</p> <p>【意識醸成】</p> <p>いの町健康まつり「農福連携講演会」、意見交換会 あったかマルシェ こうち絆ファーム等と農福連携農産物販売（社協主催）</p> <p>【就労支援】</p> <p>TEAMいの見学・体験利用 17名（内B型利用10名（内1件就労体験拠点設置事業活用）、別のB型利用3名） あったかふれあいセンターでのナスの袋詰め：2名</p>
	生きづらさ	<p>【農福連携コーディネーターとの連携、就労体験拠点設置事業の活用】</p> <p>①就労体験拠点設置事業の活用：5件 （うち1名はA農家で継続就労、1名は絆での体験利用後、一般のアルバイトで就労（コンビニ）、1名は絆での体験利用後、R6.4よりB農家での体験利用、1名は絆での体験利用後、あったかでのボランティアや農家の袋詰め作業依頼があれば作業を行っている、1名はC農家での体験利用中） 品目：ナス、ぶどう、トマト等 作業内容：手入れ、袋詰め等、 期間：週1回1時間程度を継続中</p> <p>②あったかふれあいセンターでのナスの袋詰め：3名</p>
⑥今年度の活動計画	障害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農家・事業所・専門職の意見交換会：1回</li> <li>・農福双方に対する情報提供：町の広報誌の活用、町のHPへの掲載</li> <li>・マッチング：農福連携コーディネーターとの連携した取組</li> <li>・農福連携に係る勉強会：1回</li> <li>・農福市場の開催</li> <li>・先進地視察</li> </ul>
	生きづらさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農家・事業所・専門職の意見交換会：1回</li> <li>・農福双方に対する情報提供：町の広報誌の活用、町のHPへの掲載</li> <li>・マッチング：農福連携コーディネーターとの連携した取組</li> <li>・農福連携に係る勉強会：1回</li> <li>・農福市場の開催</li> <li>・先進地視察</li> </ul>
⑦今後、農福連携に取り組む農家等や障害者等を増やすための取組		<ul style="list-style-type: none"> <li>・農福連携研究会・就労支援部会の開催</li> <li>・就労体験拠点設置事業の農福連携コーディネーターと連携した活動の周知と障害者理解のための勉強会の実施</li> <li>・定期的に農福市場を開催し、農家の方との関係性を深めるとともに、事業を周知する場とする。</li> </ul>
⑧農家等及び障害者等の農福連携に係る取組ニーズの把握方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>・農福連携コーディネーターとの連携</li> <li>・農業関係者との意見交換</li> <li>・自立支援協議会就労支援部会への周知</li> </ul>
⑨農福連携を推進するうえでの課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・農家さんを含めた事業主や地域の方の障害者理解が必要</li> <li>・就労体験拠点設置事業については、農業分野だけでなく、他の業種や他市町村の利用を可能とし、体験場所を増やし選択肢を広げる。</li> </ul>

各プラットフォーム確認事項

名称		四万十町農福連携推進協議会
①参画機関		<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般社団法人四万十農産</li> <li>・株式会社サンビレッジ四万十</li> <li>・パーソルチャレンジ株式会社</li> <li>・有限会社西宮組</li> <li>・就労継続支援多機能型事業所しまんと創庫</li> <li>・就労継続支援B型事務所あさぎり、やまびこ</li> <li>・障害者就業・生活支援センターこうばん</li> <li>・社会福祉法人しまんと町社会福祉協議会</li> <li>・JA高知県高西営農経済センター</li> <li>・(一社)高知県農業会議</li> <li>・四万十町役場農林水産課、健康福祉課</li> <li>・須崎福祉保健所</li> <li>・高知県障害保健支援課、環境農業推進課</li> <li>・須崎農業振興センター高南農業改良普及所</li> </ul>
②支援対象者の範囲		農業分野で就労を希望する障害者、ひきこもりの方、生活困窮者
③活動方針		支援対象者の働く場づくり
④会の開催頻度		2～3回/年
⑤令和5年度の活動実績	障害・ 生きづらさ	<p>【情報交換会】 農福連携推進協議会 2回 (①9月、参加者16名 ②3月、参加者11名)</p> <p>【意識醸成】 農福連携研修会：1回(9月、参加者16名) 農家に対する情報提供、アンケート調査(8回、回答者45名)</p> <p>【マッチング支援】 ①《直接就労》支援案件数：1件 ②《施設内就労》支援案件数：2件(うちマッチング数：1件)</p> <p>【マッチング内容】 《品目》ミョウガ《雇用or委託》委託《作業内容》パック詰め</p> <p>【その他】 福祉イベントへのブース出展：1回</p>
⑥今年度の活動計画	障害・ 生きづらさ	<p>【情報交換会】 農福連携推進協議会 3回以上/年</p> <p>【意識醸成】 農福連携フォーラム 1回/年 情報発信などによる相互理解の推進</p> <p>【マッチング支援】 随時</p>
⑦今後、農福連携に取り組む農家等や障害者等を増やすための取組		<ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会で定期的な情報交換を行う</li> <li>・福祉事業者や農家への積極的な情報提供、アンケート調査の実施</li> <li>・作業体験会等を通じた相互理解の推進</li> </ul>
⑧農家等及び障害者等の農福連携に係る取組ニーズの把握方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>・JA生産部会等でのアンケート調査の実施</li> <li>・福祉事業者、人材派遣会社などからの情報収集</li> </ul>
⑨農福連携を推進するうえでの課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労体験可能な企業や法人の不足</li> <li>・取り組み内容に理解がある、または取り組める状況の農家が少ない</li> <li>・マッチングの成立はケース by ケースで、やってみないとわからない</li> </ul>